

和歌山高等学校

実施日時	平成30年11月5日(月) 13時20分～15時10分
参加者	生徒540名 教職員42名 計582名
実施内容	災害時の対応についてのグループワーク、心肺蘇生法、止血法、ロープワーク

事前の取組

事前指導として、プリントにより目的・内容等を各HRで伝達。

主なプログラム

自衛隊による体験・講演を行い、災害時の体験、知識に力を入れた。

		3学年	2学年	1学年
	13:05～13:15	更衣 グラウンドに移動	更衣	
5限	13:20～14:10	教室にて防災教育 担任、副担任により 災害時の対応について グループワークを行う	グラウンドにて体験 ロープワーク 簡易担 架を中心に ※体験は自衛隊員が各 クラスに2～3名がつ き、指導してくれた 担 任、副担任が入る	講演 災害に備えて 自衛隊和歌山地方協力 本部 副本部長 合田直樹 様
6限	14:20～15:10	グラウンドにて体験 心肺蘇生法 止血法を 中心に ※体験は自衛隊員が各 クラスに2～3名がつ き、指導してくれた 担任、副担任が入る	教室にて防災教育 担任、副担任により 災 害時の対応について グループワークを行う ワークシートによる振 り返り	教室にて防災教育 担任、副担任により 災害時の対応について グループワークを行う ワークシートによる振 り返り
SHR	15:10～15:20	ワークシートによる振 り返り		

参加者感想文

(3年E組 女子)

大量出血をすれば命に関わることは分かっていたけれど、20%程で危険になるとは思っていませんでした。半分以上で危ないと思っていたので驚きです。出血をしてそのまま放置しているとわずか1分

程で命を落とすのはずいぶん早い時間だと思いました。傷口より上の方で止血すれば助けられることを聞いて、災害時のときだけではなく、もしものとき通学途中などにそうぐうしても対応できると思いました。

(2年A組 女子)

今日は実習について役立つことを教えていただきました。まずは本結び、玉結び、もやい結びをおそわりました。これができるようになると災害時に自分や周りの人が助けることができる大事なことだと思いました。それに身近な物でたんかを作るやたんかの強度を知ることができました。最近では地震や台風でも大災害がありました。金曜日にも地震があったし、今日の朝も震度3のゆれがあって、何の準備もしていないことに不安を感じました。自分たちが予想できなく地震は突然にきます。いつでも逃げられるようにしないと本当に苦労すると思いました。今日は授業で学んだことを忘れずできたら周りの人を守れるようになります。

(1年E組 女子)

一般の人では分からないような話や、自然災害に対する対策などをたくさんききました。少しのことでも一つ一つ大事な話だと思いました。自分自身大きな揺れを感じたことがないので、地震の怖さをニュースなどで見ることしかできないけれど、いざ南海トラフや近くの府県で地震が起きた時に今日はきいたことを役立たせたいなと思いました。



成果と課題

(1) 運営について

関係機関との連携について

自衛隊和歌山地方協力本部にご協力いただき、2、3年の2学年が体験、1学年が講演していただくことができた。約20名の隊員に来校いただき、体験指導、講演をしていただいた。

(2) 体験内容について

一昨年度、28年度には南海トラフ巨大地震発生の際に被害の出ることが想定される紀南地域の線区を持つJR西日本和歌山支社で現場を指揮されている方の講演を聴き、これまで知らなかった和歌山県で起こる地震・津波の甚大さを初めて知り、自助、共助、公助の必要性を感じた。知らなかったこれまでと、知った後とでは一人ひとりのできることが異なる。

29年度より、自衛隊和歌山地方協力本部にご協力いただき、2、3年の2学年には災害時に役立つ体験講習、1学年には災害時に備えてを講演していただいている。今年度30年度には約20名の隊員に来校いただき、自衛隊員による体験指導、副本部長より講演をしていただいた。2・3年生は、災害時、実際に必要となる担架の作り方、止血法などという実践的な体験を行い、1年生は、「災害に備えて」起こりうる災害と、その時の対応、災害派遣等を聞き、自らの備えとした。体験も、講演も、学年進行により、前年度に教えていただき知ったこととは相互に補う。1時間という短い時間であるが、年度ごと、学年毎で、今後も自衛隊の協力を得、学年進行でさまざまな体験をすることができる。災害の現場を経験されている自衛隊の皆さんの体験講習、お話を受けさせていただくことは、災害、防災を意識する上でとても貴重である。

(3) 地域・保護者との連携（地域住民及び保護者の参画）について

防災スクールの実施にあたり、保護者及び地域住民への周知が十分ではなかった。保護者等の参加がなかった。今後も、周知の徹底及び保護者及び地域住民への運営への参加を検討する必要がある。